

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	14-049	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol drinking and cutaneous melanoma risk: a systematic review and dose-risk meta-analysis. 飲酒と皮膚における黒色腫のリスク：系統的レビューと線量・リスクのメタ分析		
執筆者		
Rota M, Pasquali E, Bellocco R, Bagnardi V, Scotti L, Islami F, Negri E, Boffetta P, Pelucchi C, Corrao G, La Vecchia C.		
掲載誌		
Br J Dermatol. 2014 May;170(5):1021-8. doi: 10.1111/bjd.12856.		
キーワード		PMID
飲酒、皮膚黒色腫、日焼け		24495200
要 旨		
目的： 飲酒量により日焼けの重症度が増大し、CM(cutaneous melanoma:皮膚黒色腫)の主要リスク因子でもある。複数の疫学研究によりアルコール消費量と CM 間の関係性について示されているが、エビデンスに一致性が見出されていない。このため本研究ではアルコール消費量と CM 間の関係性を検証する。		
方法： アルコール消費量と CM 間の関係性を検証するために関連文献の系統的レビューとメタ分析手法を用いる。非線形メタ回帰ランダムエフェクトモデルを通じて日照射線量・リスク間の関係性をモデル化した。メタ分析には 16 研究(14 のケースコントロール研究と 2 つのコホート研究)の計 6,251 症例の CM を対象とした。		
結果： 非飲酒者および機会飲酒者に対する飲酒者のプールした相対リスクは 1.20 [95%信頼区間 1.06-1.37]であった。リスク推定値はケースコントロール研究(相対リスク 1.20, 95%信頼区間 1.01-1.44)とコホート研究(相対リスク 1.26, 95%信頼区間 1.19-1.35)のサブ解析でも同様であった。軽度飲酒者(≤1杯/日の飲酒)と中重度飲酒者のプールした相対リスクはそれぞれ 1.10 (95%信頼区間 0.96-1.26) と 1.18 (95%信頼区間 1.01-1.40)だった。日光への暴露量を調整した 10 研究のプールした相対リスクは 1.15 (95% 信頼区間 0.94-1.41)であり、調整しなかった 6 研究は 1.27 (95% 信頼区間 1.20-1.35)だった。出版バイアスは確認できなかった。		
結論： 先行研究の関連文献のメタ分析の結果、アルコール消費量は CM のリスクと正の関連が認められた。日光暴露に対する検討しきれていない交絡因子による影響を排除しきれないため、結果の解釈にはなお注意を要する。		